

令和7年度 第6回第八次鹿島市総合計画審議会及び鹿島市まち・ひと・しごと創生会議（答申）

議事録（概要）

1. 日時：令和7年11月14日（金） 11時00分～11時30分

2. 開催場所：鹿島市役所 5階 大会議室

3. 出席者

(1) 委員：森委員、馬郡委員、野中委員、伊藤委員、山口委員

(2) 事務局：川原政策総務部長、岩下市民部長、山浦建設環境部長、

山崎産業部長、江頭教育次長、中村政策調整課長、

三ヶ島政策調整課参事、森田政策調整課長補佐、峰松政策調整係長、

4. 内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ（森会長）

今回の審議会にあたり、委員の皆様には長期間において熱心にまた建設的な議論をいただき感謝しております。本答申が市民の皆様の暮らしの向上と地域の発展につながることを願っています。

(3) 答申

森会長より市長へ答申書の提出

(4) 市長あいさつ

森会長をはじめ、審議会委員の皆様方が5回にわたる審議で、多方面から貴重なご意見やご提言を、活発に交わしていただいたことに、心より敬意を表します。頂戴いたしました答申内容は、本市の未来に向けた実りある議論の成果であると受け止めております。審議会を通じて、地域社会の抱える課題や市民の皆様のさまざまなご意見をしっかりとくみ取っていただいたことに感謝申し上げます。

今後は、皆様からの答申をもとに、新総合計画を策定し、本市のさらなる発展と市民の皆様の笑顔をつなげる取組へ尽力する決意です。本日は誠にありがとうございました。

(5) 意見交換

A委員： 体育館の冷暖房設備設置について声が多く上がっているので、早急に取り組みをお願いしたい。

B委員： 答申書に（具体的な事業の実施にあたって：総合計画で示された施策の方向性に沿って、具体的な事業を実施される際には、課題解決に向け遅滞なく取り組まれるとともに、事業の目的や内容などを市民・関係者に向け、早期に広く丁寧な周知に努め、計画目的の達成に向けた着実な事業進捗を図られたい。）と記載がある。先ほど言われた体育館の空調の件についてもだが、ぜひ取り組んでいただきたい。

市長： 体育館の話があったが、気候変動に伴って体育館の空調についてもだが、農作物や水産業にも影響が出ており、そういう対策も必要だと思っている。鹿島市が人口が減ってきてることに対して、公共施設を今後どのようにしていくのか大きな課題となる。市民の方の利便性をなるべく低下させないようにまちの維持管理に取り組んでいきたい。課題については皆さんのお意見を踏まえて担当のほうで考えて施策に反映していきたい。

C委員： 高校生広告課について高校でされているのかなと思っていたが、鹿島市がされているということを伺った。昨日公表された高校の志願倍率の記事を見て、鹿島高校の志願倍率が低かったことに非常に危惧している。市の取り組みが実際につながっているのかなど検証していく必要があると思う。受け皿の高校もそうだが、送り出す側の中学校や小学校からの教育など新たな課題あると思っている。

市長： 市としても鹿島市広告課や釜山外大への短期留学の支援など鹿島高校の魅力を出したいということで取り組みをしてきた。学校のほうもいろいろ考えを持っておられると思う。今回の志望率が下がった要因をしっかりとつめて対策を打っていかないとますますこのような流れになってしまふので、教育委員会部局と一緒に考えていかなければならぬと思う。

D委員： 森林組合は現状として作業する職員が9名おり、そのうち8名が50～60代と高齢化しており、なんとか改善していきたいというのが、今一番の課題となっている。市のほうからもなんとかお力をいただきたいと思っている。

市長： 議会の一般質問でも時々森林組合についての話がある。管理してもらう皆様方の働きやすい環境づくりをしながら、新しく入ってもらう方にも魅力ある仕事として捉えられるように我々も後押しをしていきたい。

E 委員：私も昨日の鹿島高校の倍率の記事を見ておどろいた。以前、市長と語る会で学生と意見交換をされていたことを認識している。自分も仕事柄鹿島の企業様や個人のお客様から話を伺ったりすることははあるが、やはり、学生の声を聞くという機会があまり多くないので、その時にどのようなお話をされたのかお伺いできればと思う。

市長：高校生との意見交換については何度かやってきた。例えば、鹿島駅整備の話等の鹿島市の話題を提供して、その後学生の皆さんからいろんな質問を受けている。要望もある。そういう話を聞いて、今後鹿島市でどういうことをやっていけたらいいかということをお互いに話し合う機会となっている。

鹿島高校の志願率が低かったことについて、原因を突き詰めてどういうふうに解決していくのか、県の教育委員会のほうにお願いをしたり、積極的に検討していかなければならないと思う。これから鹿島市をつくるためには、今から鹿島市を担っていただく若い皆さん方の考え方も非常に大事なので、お互いに話し合って解決していきたいと思っている。

A 委員：PTAとはなんなのかという話をする機会がけっこうあり、これから鹿島を背負っていく子どもたちにどう伝えていくのかという話をよくする。例えば、登校班がいいのか悪いのかという話があり、どちらのもよかたり悪かったりがあるが、時代の流れにそってどう取捨選択していくのかという話題が良く出る。そういう中でも体育館の冷房設備は必要なのではないのかという話をしている。

敵対するわけではなく、皆さんが思っていること（目的）は一緒だと思うのでPTAとしての思いを伝えたい。

市長：いろんな課題があることを皆さんで共有して検討していきたいと思う。いろいろな意見を聞かせていただきたい。

B 委員：先日、子どもたちが外国の方から写真を撮られて警察に報告される事案があった。総合計画の目指すまちのすがたに「つながる笑顔のまち かしま」とあるが、昔と違って最近は子どもたちに気軽に話かけることができなくなってしまった。そのようなこともあるので子どもたちは会話ができなくなってきたているのかなと感じる。

市長：「つながる笑顔のまち」としたのはみんなが笑顔でいてほしいという思いを込めている。今からはグローバルな世界となっていくので、そういう意識をどういうふうにお互いに共有して持っていくのか大事になってくると思う。

(5) 閉会

5. 配布資料

・次第

- ・第八次鹿島市総合計画（素案）について（答申）
- ・資料2（つながる笑顔のまちかしま～第八次鹿島市総合計画～）
- ・資料3 第3期鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業一覧

